

令和5年度「自己点検・自己評価」 前年度評価結果および他校評価との比較

【評価基準】 4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切

I. 教育理念・目標 ※網掛け・下線部分：昨年度評価と異なる箇所、赤字：他校評価が自己評価と異なる箇所

評価項目	R4年度 自己評価	R5年度 自己評価	R5年度 他校評価
1. 理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特徴が明確になっているか）	4	4	4
2. 学校における職業教育の特色は何か	4	4	4
3. 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	4	4
4. 学校の理念・目的・人材育成像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4	4	4
5. 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	4	4
平均点	4.0	4.0	4.0

II 学校運営

評価項目	R4年度 自己評価	R5年度 自己評価	R5年度 他校評価
1. 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	4	4
2. 事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4	4	4
3. 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	4	4
4. 人事・給与に関する制度は整備されているか	4	4	4
5. 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	4	4
6. 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	4	4
7. 教育活動等に関する情報公開が適正にされているか	4	4	4
8. 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	<u>3</u>	<u>4</u>	4
平均点	<u>3.9</u>	<u>4.0</u>	4.0

III 教育活動

評価項目	R4年度 自己評価	R5年度 自己評価	R5年度 他校評価
1. 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	4	4
2. 教育理念、人材育成像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	4	4
3. 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	4	4
4. キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	4	4
5. 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	4	4
6. 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4	4	4
7. 授業評価の実施・評価体制はあるか	<u>3</u>	<u>4</u>	4
8. 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	4	4
9. 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4	4	4

10. 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	4	4
11. 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	4	4
12. 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務をむ)を確保するなどマネジメントが行われているか	4	4	4
13. 関係分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	4	4
14. 職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	4	4
15. 教員の研究活動を保障(時間的・財政的・環境的)しているか	4	4	4
16. 教員の研究活動を助言・検討する体制を整えているか	4	4	4
平均点	3.7	4.0	4.0

IV 学修成果

評価項目	R4年度 自己評価	R5年度 自己評価	R5年度 他校評価
1. 就職率の向上が図られているか	4	4	4
2. 資格取得率の向上が図られているか	4	3	3
3. 退学率の低減が図られているか	2	3	3
4. 卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか	3	3	3
5. 卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	3	3	3
平均点	3.2	3.2	3.2

V 学生支援

評価項目	R4年度 自己評価	R5年度 自己評価	R5年度 他校評価
1. 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	4	4
2. 学生相談に関する体制は整備されているか	4	4	4
3. 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	4	4
4. 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	4	4
5. 課外活動に対する支援体制は整備されているか	3	4	4
6. 学生の生活環境の支援は行われているか	4	4	4
7. 保護者と適切に連携しているか	4	3	4
8. 卒業生への支援体制はあるか	4	4	4
9. 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	4	4
10. 高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	3	3	4
平均点	3.8	3.8	4.0

VI 教育環境

評価項目	R4年度 自己評価	R5年度 自己評価	R5年度 他校評価
1. 施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	4	4
2. 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	4	4
3. 防災に対する体制は整備されているか	3	3	4
平均点	3.7	3.7	4.0

VII 学生の受け入れ募集

評価項目	R4年度 自己評価	R5年度 自己評価	R5年度 他校評価
1. 学生募集活動は、適正に行われているか	NA	NA	NA
2. 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	NA	NA	NA
3. 学納金は妥当なものとなっているか	4	4	4
平均点	4.0	4.0	4.0

VIII 財務

評価項目	R4年度 自己評価	R5年度 自己評価	R5年度 他校評価
1. 中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか	3	4	4
2. 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	4	4
3. 財政について会計監査が適正に行われているか	4	4	4
4. 財務情報公開の体制整備はできているか	4	4	4
平均点	3.8	4.0	4.0

IX 法令等の遵守

評価項目	R4年度 自己評価	R5年度 自己評価	R5年度 他校評価
1. 法令・専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	4	4
2. 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	4	4
3. 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	4	4
4. 自己評価結果を公開しているか	4	4	4
5. 学生や保護者が自由に意見を言える体制が整備されているか	4	4	4
平均点	4.0	4.0	4.0

X 社会貢献・地域貢献

評価項目	R4年度 自己評価	R5年度 自己評価	R5年度 他校評価
1. 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	<u>3</u>	<u>4</u>	4
2. 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	4	4
3. 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	<u>3</u>	<u>2</u>	2
平均点	3.3	3.3	3.3

XI 国際交流（必要性に応じて）

評価項目	R4年度 自己評価	R5年度 自己評価	R5年度 他校評価
1. 留学生の受け入れ・派遣について戦略を持って行っているか	NA	NA	NA
2. 留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	NA	NA	NA
3. 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	NA	NA	NA
4. 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3	3	3
平均点	3.0	3.0	3.0

令和5年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画の評価

1. 質の高い教育実践

- 1) 看護師国家試験合格 100%を目指す
 - 2) 学生のキャリア支援（学修、就職・進学）を行う
 - 3) 授業評価の中間評価（授業改善評価）の実施と結果の活用
 - 4) 学校カリキュラム評価年2回の実施と結果の活用
 - 5) 学生による卒業時満足度の全体平均 3.4 以上を目指す
- ⇒ 1) については、クラス担任、国家試験対策支援担当教員を中心に、教員会議で学生の学習状況を報告し情報共有するとともに、国家試験模擬試験を実施し、全国区の中での現状を把握、成績低迷者に対し個別の学習支援を行った。
- 国家試験の自己採点では必修問題、一般・状況設定問題ともに業者の全国平均より高かったものの、必修問題で 40 点未満の学生が 2 名いた。必修問題については全国平均が 42.5 点と過去 10 年で最も低い値であったため厚生労働省の合格発表を待って対応したい。
- 2) については、クラス担任・就職進学支援担当の教員を中心に、就職試験対策や個別面談を行った。卒業生 32 名全員が就職内定を得ている。
 - 3) 4) について
 - ・今年度から学生の授業評価結果をタイムリーにフィードバックできるように中間評価として「授業改善評価」を行い、講師に返却し後半の授業に活かせるようにしている。
 - ・学生のカリキュラム満足度調査を 7 月に行い結果から改善できることを教員会議で検討し、結果は夏季休業明けに学生に公表した。
 - ・卒業時のカリキュラム満足度調査を 3 月 1 日に実施し結果分析を行った。
 - 5) について
- 7 月の中間評価で全体平均 3.3 と目標値に届かず、中間評価の結果を後期の教育活動に活かし、学生の満足度が上がるように取り組んだが、卒業時の満足度調査は全体平均 3.2 で中間からさらに 0.1 低い値となった。
- 評価が低くなった要因として考えることは、閉校前の最後の学年で下の学年がいなかったため、自分本位で行動する学生が多くクラス全体のまとまりにやや欠け、卒業間際まで教員が繰り返し注意をしていたことが影響したと考える。

2. 教員の教育力・管理能力の向上

- 1) TNAD(看護教員能力開発プログラム)による教員個々のキャリア育成
 - 2) 研究活動および学会発表を支援
 - 3) 研究授業、研修参加を推進
 - 4) 受講した研修の伝達講習による学びの共有
- ⇒ 1) 4 月に TNAD のラダー申請を行い、各自計画的に自己の能力開発に取り組んだ。
- 2) 6 回/年の研究日は研究活動に専念できるよう互いに協力し業務調整を行い、令和 5 年度 3 題の演題を学会発表できた。また、質の高い研究ができるように 4 グループ中 3 グループが研究アドバイザーを大学教授に依頼し適宜助言を受けて研究活動にあたった。
 - 3) 閉校年で最終学年のみとなり研究授業を開催機会が限られていたが、令和 5 年度の研究授業を 5 回実施し授業方法の見直しやスキルの向上に役立てた。うち 1 回は公開研究授業で行い自校教員の他に他校の教員 2 名が参加、貴重な意見交換をすることができた。
- また、他校で開催された研究授業に 1 名参加し担当領域の教育方法について学びを深める機会となった。
- 4) 全教員が、自分が参加・受講した学会や研修の伝達講習を行い学びの共有ができるように計画し、2 月 21 日現在 8 名中 6 名が伝達講習を行った。

3. 健全な学校経営

- 1) ハラスメントのない職場にする
 - 2) 働き方見直しと効率的な時間管理の体制整備
 - 3) 年次休暇の計画的な取得
 - 4) 経費節減に向けた努力（保有資材の有効活用、節電・節水 等）
- ⇒ 1) R5.8 開催の副学校長・教育主事・教員夏期研修会の講演テーマが「ハラスメントのない学校づくり」で

あり、当番校として研修会の開催準備を進めながら自己の振り返りや自校の体制について見直す機会となった。

2) 閉校年を迎え閉校準備が本格的となり従来業務とは異なるイレギュラーな業務が多くなり、効率的な時間管理が難しい状況であったが、各担当のタイムテーブルに沿って互いに協力し合い業務を行うことができた。

3) 1～2 日/月を目安に計画的に年休取得ができるようにしたが、国家試験対策・閉校準備が佳境に入った12月以降取得日数が鈍化している。

2月29日現在、平均年休取得15.4日（前年15.0日、対前年+0.4日）で、最高取得19日、最低取得14日であった。（*リフレッシュ休暇3日含む）

4) 在庫管理を行い保有資材を有効活用できるようにした。

閉校後に母体病院・NHO 関信管内附属看護学校、県内NHO 病院に物品を譲渡できるように計画準備し、学生が卒業後に希望部署・施設に譲渡した。

4. 閉校に伴う業務の遂行

1) 閉校記念誌作成、閉校記念式典を滞りなく行う

2) 学籍簿の整理と本部移管

3) 関連法に規定された各種届出

4) 教材・図書、備品の譲渡

⇒1) 2) 3) 4) について

・閉校準備委員会を立ち上げ、閉校までの工程表を作成し準備を進めた。

・毎月第3水曜日の教員会議で担当役割の進捗報告を行い学内で検討。1回/月（毎月第1水曜）開催される閉校準備委員会の会議計画に沿って審議を行った。

・閉校準備委員会での審議事項については、直近開催の学校運営会議で報告し決議し、ほぼ予定通りに進んだ。

【自己評価結果に対する学校関係者評価委員の意見】

・ 妥当な評価であるとする。

・ 「授業改善アンケート」を実施し結果を後半の授業改善につなげられたのは良い。終講する前に学生の意見が反映できる。貴校だけではなく自分本位な行動をする学生が増えている。自分がどうしたいのかではなく相手が見てどう思うのか考えさせる等、なぜいけないのかの理由が伝わるような指導が必要。特に看護師は相手とのコミュニケーションを大切にする職業であるため、相手のことを考えて行動できる学生を育てていくことが大切である。

令和6年3月8日（金）

国立療養所多磨全生園附属看護学校

1. 質の高い教育実践

閉校年度において、その年度の講師への授業改善への取り組みとして学生による授業評価を行いタイムリーな対応をされていたことは評価できる。さらに、日々の講義の様子について学校職員が把握し早期に対応することで、よりよい授業環境が保障されると考える。

満足度調査についての中間評価をされているので、学生へ結果と学校としての取り組みのできる範囲を明確に示したフィードバックを行い、学生と教員の認識をできるだけ一致させることで満足度の向上が図られると考える。

2. 教員の教育力・管理能力の向上

講義科目の少ない中で、研究授業の積極的な実施や参加は今後の教員個人の教育力向上につながっていると考える。

3. 健全な学校運営

夏期研修会の当番校として「ハラスメントのない学校づくり」をテーマに自己の振り返りを含まれて取り組まれていることは評価できる。学生の満足度評価の中の「学校職員は学生の関心事に耳を傾け近づきやすい存在である」の項目が2.7であることをみると学生の関心事への向き合い方を教職員全体で共有し取り組まれることが必要ではないかと考える。

閉校年度であり、本来業務以外の作業の多い中で教職員が協力しながらタイムテーブルどおりに進めてこられたことはチームワークの良さが評価できる。また、教職員の年休取得状況も高くワークライフバランスに配慮されていると考える。

閉校について地域社会、卒業生、保護者へ向けた最終広報の発行も計画されていることは評価できる。

4. 閉校に伴う業務の遂行

閉校に伴う業務については、タイムテーブルの作成をもとに教員会議、閉校準備委員会での審議・検討、学校運営会議での決定などを効果的・効率的に進められた。

評価者

国立療養所多磨全生園附属看護学校

評価日

令和6年3月8日（金）